

まちのわだい

あなたの周りで起きた出来事や楽しい話題、イベントなどの身近な情報をお待ちしています。

▷問い合わせ 広報情報係
(☎223局3569)



熱中症かコロナか？人命を守るため厳しい訓練

7月5日 芦屋海水浴場×玄海ライフセービングクラブ

コロナ禍で更衣室などでの密が避けられないため、今年のアクアシアの営業は中止となりましたが、芦屋町の美しい夏の海を楽しんでもらおうと、芦屋海水浴場は8月16日回まで開設しています。

その海水浴場での水難救助活動や水難事故を未然に防ぐ啓発活動を行っているのが、玄海ライフセービングクラブの皆さん（表紙の写真）です。クラブは現役の消防隊員や警察官、海上保安庁職員OBなどを含めた人員で構成されており、互いの専門知識や経験を集結して、事故防止や人命救助を行うボランティア集団です。

新型コロナウイルス感染症と熱中症は症状がよく似ていることから、救助の際はコロナ感染者を前提に防護服・フェイスシールド・ゴーグル・手袋を2重にして着用し、できるだけ最小人数で対応すること。心臓マッサージや人工呼吸が必要な場合は、感染リスクがより一層高まるため、患者の呼気が救助者に戻らない一方のマスクを使用し、救急隊などに引き継ぐまでの一次救命処置を行います。正義感と熱意で最善を尽くすボランティア集団の皆さんの願いは、来場した皆さんに楽しい思い出を持ち帰ってもらうことだそうです。



芦屋港活性化に向けて

6月25日 芦屋港活性化基本計画・変更計画

芦屋港活性化基本計画のレイアウトを変更する福岡県からの提案を受け、その提案に対する回答と、一部を変更した基本計画を松本県議会議員立ち合いのもと、波多野町長が福岡県県土整備部長に手渡しました。

県土整備部長からは、「すみやかに港湾計画の変更を行い、早く事業化を図っていききたい」と県の考え方が示されました。





いつまでもお元気で

祝 100 歳おめでとう

満 100 歳を迎えた久野マキエさん（幸町）に、波多野町長からお祝い状などが贈られました。久野さんは芦屋生まれ、芦屋育ち。町内で左官業を営んでいた、夫の^{あらた}新さんの手伝いをしていたそうです。お祝いに駆けつけた子どもや孫たちに囲まれた久野さんは、「100 歳は生きることが目標だった、これからはできるだけ長生きします」とうれしそうに話していました。

コロナとんでけ～！七夕の短冊に願いを込めて

6 月 26 日 愛生幼稚園×芦屋釜の里

七夕の飾り付けを施した約 3 m ほどの笹を持って、愛生幼稚園の園児たちが芦屋釜の里を訪れました。これは、園児たちが願いを込めて書いた短冊や折り紙で作った織り姫や彦星などを飾り、季節の行事として毎年行われています。訪問した日は、ちょうど芦屋釜の里の工房で鉄を溶かしていたので、園児たちはその様子を見学。炉から炎が上がる様子に驚きながら、^{いもじ}鋳物師の樋口さんの話を熱心に聞いていました。



読書から広がる学びの世界

7 月 1 日 芦屋小学校×文部科学大臣表彰

平成 29 年度から福岡県教育委員会「鍛えよう！ほめよう！」プロジェクト「読書活動の充実を学び意欲の向上事業」を受け、自ら意欲的に読書に取り組み、読みや学びを深めようとする研究を行ってきた芦屋小学校。3 年間の実践研究の成果などが認められ、文部科学大臣表彰を受賞し、図書委員会委員長らが波多野町長へ報告を行いました。

みんなで作った、感動のちぎり絵花火がど～ん！

7 月 9 日 複合介護施設 芦屋はまゆう

コロナ禍で、楽しみにしていたあしや花火大会が中止となったことから、残念に思っている利用者の皆さんの気持ちを払拭したいと、芦屋はまゆうの職員が思いついたのが花火のちぎり絵製作です。下絵を 20 枚のパーツに分け、みんなで一緒に折り紙をちぎって貼り付けること約 40 日。完成した絵をつなぎ合わせ、1.5 m 平方に広がる大輪の花火が現れると、感動の拍手と歓声に包まれたそうです。

